

三次建土発第 170 号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

三 次 市 長
(建設部土木課)



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け，国道企第37号で依頼のこのことについて，別紙のとおり回答します。

I. 高速道路及び高規格道路の整備

国際競争が激化するなか、国内経済に活力を与える基盤整備は急務です。とりわけ道路は、市民生活や経済・社会活動を支える最も根幹的な社会基盤であり、極めて重要な役割を担っています。地方の各都市・地域がそれぞれの特色を活かした発展のためには、高速道路網の整備を進める必要があります。特に少子・高齢化が急速に進む中国中山間地においては、自治体のワクを越えた広域医療、観光、雇用など、広域連携をめざす動きは一段と加速しています。

中国地方の産業・経済の発展のためにも、中国横断自動車道尾道松江線や地域高規格道路江府三次道路などの早期完成を強く要望します。

II. 生活幹線道路網の整備

少子高齢化や人口減少により、地方は深刻な状況にあります。また、公共交通機関が充足していない地方において自動車は、地域社会を支える重要な交通手段であり、通勤・通院など日常生活を支える生活幹線道路の整備が必要です。

三次市や周辺の幹線道路整備はまだまだ遅れており、広島県北部や島根県南部の経済圏と三次市街地へのアクセスの向上のため、より一層の整備を要望します。

III. 地域の安全・安心をつなぐ道路の整備

近年、各地で多発する集中豪雨や地震、豪雪などの災害に備えた、安全・安心で災害に強いまちづくりが急務となっています。災害に備えた防災工事や危険を回避する道路網の整備も必要です。

三次市は多数の河川が市内を流れており、梅雨時期の集中豪雨やゲリラ的な豪雨、冬季の豪雪も心配されます。災害時や非常時に孤立集落をつくらぬような道路整備も必要です。

IV. 徹底した無駄の排除と真に必要な道路の整備

マスコミ等で取り上げられるような、道路整備特別会計や特殊法人等への不適切な支出や無駄を徹底的に排除するとともに、より一層の効率化を進め、地域間格差への対応や地方の活性化、生活者重視の視点に立ち、真に必要な道路の整備を要望します。

②-1 地域の現状と抱える課題

広島県 三次市

○現状

三次市は、広島県北部の島根県と県境を接する中国地方の内陸中央に位置し、面積は約780km²で、広島県の約10%を占めています。これは、平成16年4月に、1市4町3村が合併したことにより、東西約35km、南北約40kmにおよぶ広大な市域となりました。

河川は、江の川を本流とし、神野瀬川、西城川、馬洗川などの支流が三次盆地の中央で合流しています。その地形は、各支流沿いに標高150～200mの平坦地が広がり、その背後は300～600mの緩やかな枝状の丘陵・山地となっていますが、北部の県境周辺は800～900m級の山々に囲まれた急峻な地域で、8割以上を山林が占めています。

また、三次市の人口は、平成17年の国勢調査では59,314人で、平成12年度の調査に比べ、3.8%減少しており、昭和60年度以降減少化に歯止めがかからない状況です。65歳以上の人口推移については、17年度調査で17,753人、高齢化率では29.9%で、12年度調査に比較し、1.6ポイント上昇し、高齢化が進んでいます。

道路網については、高速道路中国縦貫自動車道が、市の中央部を東西に通過しており、広島都市圏や、京阪神・九州方面へのアクセス道路として広く活用されています。また、現在整備中の中国横断自動車道尾道松江線が南北に通じ、山陰から瀬戸内側、広くは四国を含めたアクセスが容易となり、文字どおり、中国地方のへそとして、経済活動はもとより医療、通勤圏の拡大が期待できます。

基幹道路として、広島～三次～松江を結ぶ一般国道54号、広島～三次～米子間を結ぶ一般国道183号、尾道～三次～松江を結ぶ一般国道184号、呉～三次～大田を結ぶ一般国道375号が通り、経済・生活・文化を支える交通基盤として、県道とともに重要な役割を果たしています。

市道については、3,009路線、延長1,660km(平成20年3月末現在)で、日常生活に欠くことのできない道路網として整備を進めておりますが、安心・安全な生活の確保や豊かな生活環境の観点から、さらなる整備の充実が求められています。

○課題

【高速道路】

中国横断自動車道尾道松江線は、整備手法の変更により、無料の高速道路として、現在、国が整備中です。尾道松江線の完成により、広域的な高速ネットワークが形成され、時間短縮による通勤圏域の拡大や企業の新規参入の期待、医療圏域の拡大、新たな観光ルートの創出など、地域の活性化につながるため、一日も早い供用開始を切望します。

【基幹道路】

現在、三次市内を通過している一般国道4路線や主要地方道、一般県道は、市内はもとより備北圏域間の経済や生活に密着した路線として重要な役割を担っています。しかし、一般国道375号については狭隘で見通しも悪く歩道もない区間が多く、交通事故や緊急車両の通行が危惧されます。また、出水時の冠水、落石等の危険箇所も多くあり、早期の全線改良が待ち望まれます。

主要地方道を含む県道についても、改良が非常に遅れている路線が多数あり、沿線住民の改良を求める声が多くあがっています。

また、合併により広域化した市内を連絡する基幹道路網の整備が、緊急の課題となっています。

【市道】

地域住民に一番密着した道路としての市道について、緊急車両の通行できない道路や、災害時の非難路としての機能が十分備わっていない道路が数多くあり、今後とも整備を行う必要があります。道路財源の確保が極めて重要な課題となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

広島県 三次市

◎ 活力に満ちた産業と広域の中心機能を持つ「中核都市」づくり

- ・ 中国縦貫自動車道と中国横断自動車道尾道松江線の整備により、京阪神や九州方面の横軸と山陰と瀬戸内・四国方面の縦軸の結節点となる三次市が、中国内陸部の中心機能を持つ中核都市としてのまちづくりを目指す。
- ・ 都市機能として、最も基礎的なインフラとしての広域的道路網が不可欠であり、現在整備中の中国横断自動車道尾道松江線を有効活用したまちづくりを進める。また、尾道松江線は無料の高速自動車道として整備されるため、時間短縮はもとより、企業誘致による経済活動の活発化や勤労エリアの拡大、就労の場の拡充による若者定住、観光・交流による地域活性化を目指す。
- ・ 高速道路網の整備とともに、幹線道路としての一般国道、主要地方道、一般県道を整備し、緊急・医療、通勤・通学、自治体間の広域連携を促進し、活力のあるまちづくりを進める。

◎ 安全・安心な生活と豊かな生活環境の確保

- ・ 日常生活における身近な道路の機能は、安全・安心の確保が一番であり、緊急時や災害時における緊急車両の通行できる道路の整備や、非難時における安全な道路の確保が急務である。
- ・ 豊かな生活環境の確保の観点から、少子高齢化がますます加速する状況のなか、交通弱者としての子どもや高齢者が安心して生活できるバリアフリー化や自転車道、歩道の整備を進める。
- ・ 少子高齢化対策として、今後ますます在宅介護やサービスの需要が増大することが予想されます。介護福祉車両が自宅まで容易に出入りできる道路整備を行う。また、産科病院が三次市内しかないという現状から、三次市はもとより近隣の市町から産科病院への通院も増加するため、主要な幹線道路整備も重要となります。
- ・ 中国山地の中山間地にあつて、人口の流出と限界集落への歯止め策として、社会資本としての道路網整備は欠くことのできない重要なインフラ整備と言えます。また、そこで生活していくための産業も重要となってきます。現在、第3期となる工業団地造成も進められる中、道路整備が雇用の拡大や、特産品としてのピオーネやアスパラ等農産物の販路拡大、物流コストの削減へもつながるため、積極的に整備を推進する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

広島県 三次市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
・地域活力の向上	中国横断自動車道尾道松江線の早期完成	広域的な高速ネットワークの形成による企業誘致, 就労の場の拡充による若者定住, 通勤時間の短縮に伴う通勤圏域の拡大, 医療圏域の拡大, 観光・交流の促進。	市の評価の向上につながる。(選ばれる「まち」)
・安全・安心の確保	自宅まで緊急車両の通行できる道づくり(市道改良の推進)	災害時や緊急時の緊急車両や, 介護福祉車両等が通行できる道づくりにより, 安全・安心なまちづくり。	
・			